1 はじめに

1　はじめに

1-01　神戸三宮「えき≈まち空間」・税関線 景観デザインコードの概要

1-01　背景

1-04　目的・構成・対象範囲

1-05　運用方法

1-06　都心・三宮の再整備

1-06　都心三宮のこれまで

1-08　都心三宮及び周辺の都市構造

1-10　都心における主要プロジェクト

1-12　道路空間を活用したこれまでの取り組み

1-14　「えき≈まち空間」における エリアマネジメントの取り組み

1-16　スケジュール

神戸三宮「えき〜まち空間」・税関線景観デザインコードの概要

背景

神戸らしいまちなみ

神戸は、六甲山系と瀬戸内海に挟まれる地形により東西に長い市街地が生まれ、“海・山・空が感じられる”都市と自然が調和した美しいまちなみが形成されてきました。

明治の開港（1868年）を機に市街化が進んだ近代都市ですが、開港以来、広く世界との交流を始め、産業を興し、都市の骨格を築き、多様な生活文化を培ってきたことから、個性豊かなヒト・モノ・コトを受け入れる“進取の気性”が育まれてきました。

また、阪神・淡路大震災を経験し、“互いに助け合い、互いに励まし合いながら”、街を蘇らせてきました。

そういった背景のもと、多様な文化や暮らし、シビックプライドが醸成し、多彩な特性を持つ「まち」が生み出され、さらに良いものを選び取り洗練することで、現在の神戸の都心部を感じさせる都市と自然が調和した“上質なまちなみ”を形成してきました。

この“神戸らしさ”にさらなる魅力づくりを進め、「えき（6つの駅とバス乗降場）」と「まち」の回遊性を高めることにより生まれるにぎわいを、まち全体へ拡げたいと考えています。これらの取り組みは、まちの活力や魅力を生み出すとともに、多様な人々の出会いや交流を通じたイノベーションを創出し、新たな「神戸らしさ」につながります。

神戸ならではの魅力と高いポテンシャルを活かし、「まち」のにぎわいや居心地の良さ、上質さが感じられる神戸らしいまちなみの形成を目指していきます。

©一般財団法人神戸観光局

三宮再整備の目指す姿

神戸の玄関口である都心・三宮の再整備は、神戸全体のまちや経済を活性化し国際競争力を高めるうえで不可欠であると考えており、市民・事業者・行政が目指すべき将来像を共有し、その実現に向けて協働で取り組むため、平成27年9月に「神戸の都心の未来の姿[将来ビジョン]」と「三宮周辺地区の『再整備基本構想』」を策定しました。

三宮再整備では、海と山に囲まれ、駅とまちが近いという立地条件や美しいまちなみなどの資源を活かし、駅を出た瞬間に訪れた人々が自然とまちへ誘われる『美しき港町・神戸の玄関口』をコンセプトとして掲げ、「人が主役のまち」「居心地の良いまち」を目指して取り組みを進めます。

神戸の都心には、三宮をはじめ、北野や旧居留地、元町、ウォーターフロントなど、モザイク状に神戸らしい魅力的なエリアがあります。都心・三宮の再整備では官民が連携し、それぞれのエリアの更なる魅力向上を図るとともに都心内の回遊性を向上させる施策に取り組み、駅周辺だけでなく都心全体の活性化を図ります。

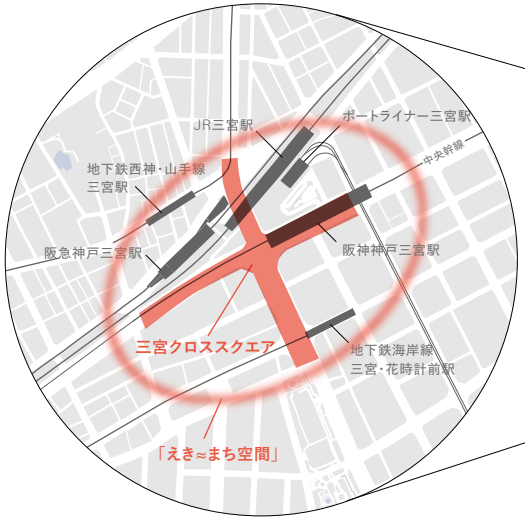
具体的には、三宮駅周辺では、分散している中・長距離バスの乗降場を集約し、西日本最大級のバスターミナルを整備し、また、既存の道路空間を人が主役の広場的空間に転換する三宮クロススクエアをはじめとした広く豊かな公共空間を沿道建築物と一体的に整備し、駅から周辺のまちへのつながりや回遊性を高めるとともに、神戸らしい新たな景観を創出します。

一方、ウォーターフロントでは、アクアリウムやオフィス、商業施設などの複合的な施設を整備し、駅とウォーターフロントをつなぐ税関線の沿道においては、本庁舎2号館や東遊園地、税関前歩道橋など本格的な再整備が始まっています。税関線では、これらの各事業を有機的につなぎ、「えき≈まち空間」からウォーターフロントに向けたさらなる人の流れを生み出すような魅力的な空間形成を図ります。

都心・三宮の再整備ではこのような取り組みを着実に進め民間投資を誘発することで、来訪者数・従業者数・滞在時間が増加し、都心のポテンシャルを向上させ、三宮だけでなく神戸全体のまちの活性化や発展を図ります。

▲三宮クロススクエアのイメージ

▼「えき≈まち空間」と三宮クロススクエア



▼神戸都心と上位計画

＊「えき≈まち空間」：まちであり、駅である空間、「えき」（6つの駅とバス乗降場）と「まち」をつなぐ空間

三宮再整備の目指す姿

「えき≈まち空間」

・駅前に象徴となる広場空間「三宮クロススクエア」を整備
・商業、業務等の多様な都市機能を高度に集積
・公共空間と沿道建築物が一体となってにぎわいを創出するとともに、駅から周辺の「まち」へのつながりの強化

回遊性の向上

回遊ネットワークの強化
・歩行者動線の強化
・多様な交通手段の確保

拠点の創出
まちのにぎわいの連続・魅力的な拠点の整備
（本庁舎2号館再整備、東遊園地再整備等）

回遊の拠点
各ゾーンをつなぎ、人の流れの起点・中継点となるたまり空間

「周辺のまち」

・既存の「まち」のさらなる魅力向上
・新たな都市機能の導入（ウォーターフロントエリア再開発等）

民間投資の誘発

・来場者数の増加
・従業者数の増加
・滞在時間の増加

→

・多様な人々の出会いや交流を通じたイノベーションの創出
・来訪者の消費額の増加
・企業の設備投資の増加
・沿道の価値向上

三宮だけでなく、神戸全体のまちの活性化・発展

目的・構成・対象範囲

目的

都心・三宮の再整備では、公共空間や沿道建築物とそこを訪れる人々の活動が相互に呼応し、公共空間はまちの背景となり沿道建築物と調和し、「人が主役」の居心地の良い「上質」で「洗練」された都市空間を創出していきたいと考えています。

三宮駅前の「えき≈まち空間」及び神戸のシンボルロードである「税関線」を対象に、公共空間と沿道建築空間が一体となった魅力的な景観づくりを進めるため、公共空間の整備に向けた計画や、周辺の建築空間のあり方（配置、ボリューム、意匠、色彩、外構等）を視覚的に分かりやすくまとめた「景観デザインコード」を策定します。

市民や市内外事業者等に三宮が変わる姿を提示するとともに、民間事業者等と目指す都市空間のデザインを共有し、社会情勢や地区の特性に応じて協議を重ねながら創造することで、官民連携による神戸の玄関口にふさわしい空間を創出することを目的としています。

都市空間のデザインを検討するにあたっては、ハード整備だけでなくその利活用を想定した一体的な検討が必要です。そのため、現在地権者や市民の方々が取り組んでいるエリアマネジメントの活動を反映するとともに、歩行者行動のデータや数学的手法を用いた空間特性分析の結果を活用し（付録参照）、空間デザインの考え方に盛り込んでいます。

官民連携による神戸の玄関口にふさわしい空間を創出することで、さらなる沿道の価値向上や都心のポテンシャル向上を目指します。

構成

景観デザインコードは、地域における景観のあるべき方向性を示すものであり 、「公共空間」「建築物」「夜間景観」「屋外広告物」の4つの視点のもと、「景観形成方針」「景観形成基準」「ガイドライン」により構成するものです 。

対象範囲

公共空間のデザイン（第3章）	「えき≈まち空間」及び税関線の三宮北交差点から税関前交差点 ※三宮北交差点以北、税関前交差点以南については実務的な調整を実施
建築空間のデザイン（第4章）	「えき≈まち空間」及び税関線の布引交差点から税関前交差点

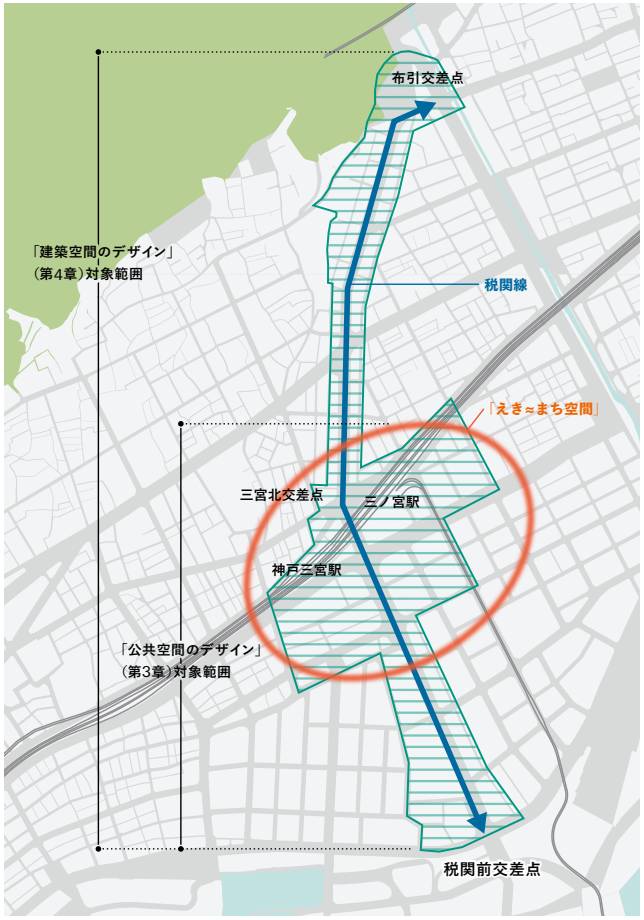
▼景観デザインコードの内容

景観デザインコード

景観形成方針	基準やガイドラインなどの前提となるコンセプト
景観形成基準	法令に基づく行為の制限事項等 （主に行政による運用を想定）
ガイドライン	基準化になじまない誘導事項等 （地元協議会と行政の連携による運用を想定）

公共空間 | 建築物 | 夜間景観 | 屋外広告物

▼景観デザインコードの対象範囲



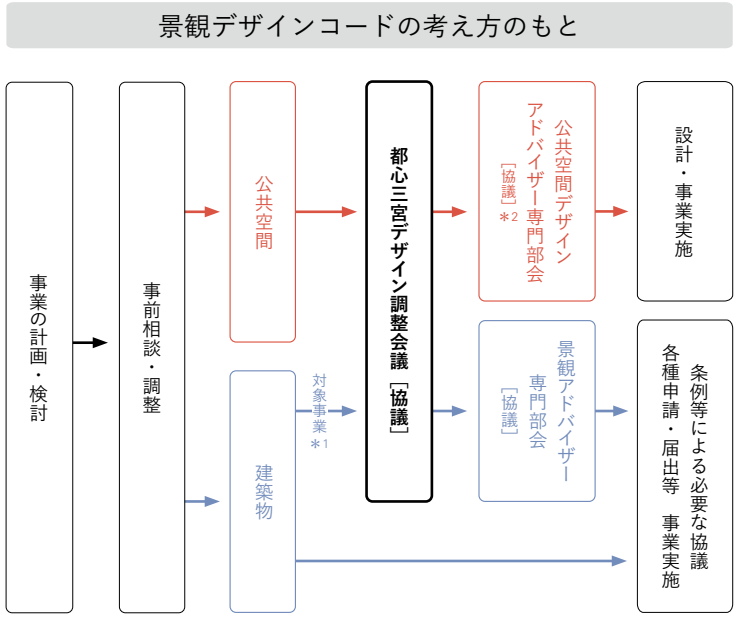
運用方法

景観デザインコードの運用

都心・三宮が目指す姿は、景観デザインコードをもとに、行政や事業者等が、公共空間と沿道建築物が一体となった空間のあり方を共有し、数値的な基準のみにとらわれず、社会情勢や地区の特性に応じた考え方により、柔軟に協議を重ねることで創りあげられていきます。

対象エリアにおいて事業を計画される際は、地域団体等の意見も取り入れながら、本市が設置する都心・三宮デザイン調整会議において、公共事業と民間事業の計画の総合的なデザイン調整を行います。

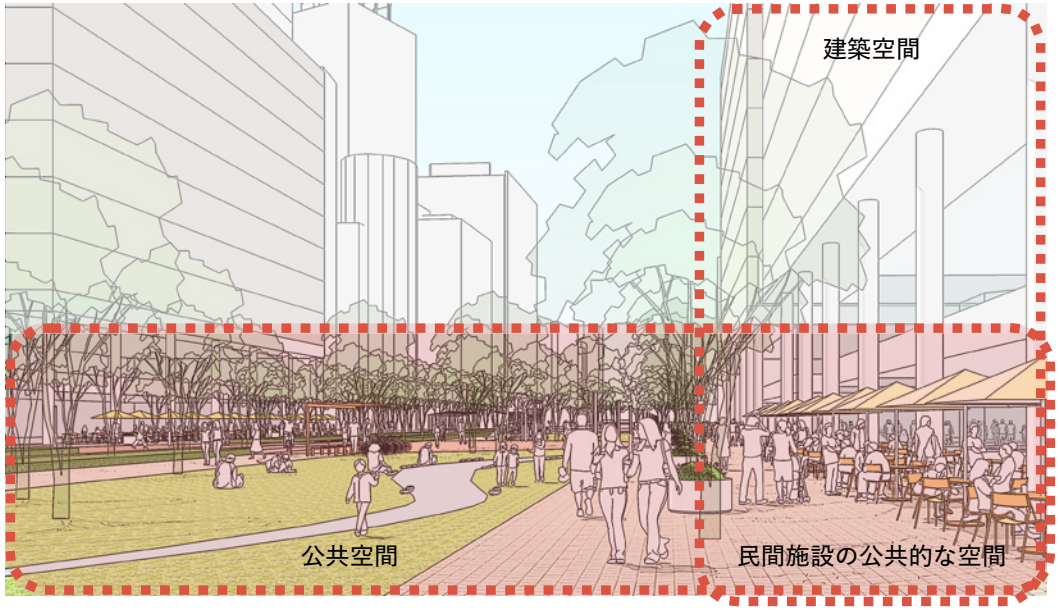
▶ 景観デザインコード運用の流れ



＊1　原則、神戸市都市景観条例に基づく景観デザイン協議の対象行為に準ずる

＊2　事業によっては、都心三宮デザイン調整会議が、当部会を兼ねる場合があります。

▼ 官民連携による一体的な空間の整備イメージ



都心・三宮の再整備

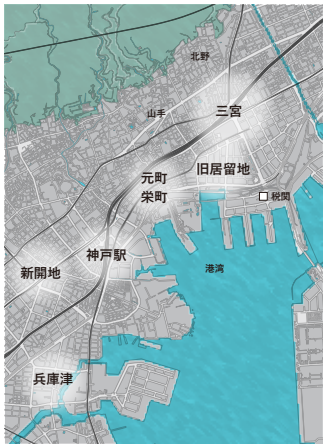
都心三宮のこれまで

神戸は明治の開港を機に急速に市街化を進めた近代都市です。六甲山系と瀬戸内海に挟まれた土地に東西に細長く市街地を広げてきました。

近世の町場である兵庫津、港湾の中枢を担う税関・居留地、交通の要衝となる神戸駅を拠点に、周辺に新開地、元町・栄町など多様な「まち」がモザイク状に位置した中、1931年の国鉄三ノ宮駅の現在地への移転、1956年の神戸市役所の現在地への移転に伴い、都市の中心や賑わいは東の三宮へ移り、都心・三宮が誕生しました。

その後、ウォーターフロント開発や新幹線の開通を経た今も、三宮は個性豊かな「まち」の集合である神戸の都心として、重要な位置を占めています。

開港以来三宮が辿ってきた都市構造の変化や重要な出来事を下記にまとめます。



1868-

国際港神戸の誕生

神戸の開港により、
一気に市街化が進みます。
国際港として税関や居留地が設けられ、
生田川が付け替えられ税関線となり、
居留地等に住む外国人用の公園として
EastPark（現東遊園地）が整備されます。

［主な出来事］
- 外国人居留地の整備 - 生田川付替工事
- EastParkの整備　- KR&AC発足
- 省線 ・ 阪神電車 ・ 市電の敷設

1931-

三宮の交通ターミナル化

現在の三宮交差点を中心に、
三宮の交通ターミナル化が進行します。
人やモノが集積し、盛り場としての
様相を呈し始めます。

［主な出来事］
- 省線高架化 ・ 三ノ宮駅を現在地に移設
- 阪神線地下化＋阪神ビル（旧そごう）開業
- 阪急電車大阪〜三ノ宮間開通＋阪急ビル開業
- 三宮センター街運営開始
- 阪神大水害
- 阪神大空襲

1956-

三宮への都心の移動・インフラ大整備

神戸市役所の三宮への移転を皮切りに、三宮が神戸の都心として機能し始めます。高度成長に併せ急速に増加する自動車交通と歩行者交通を捌くべく、道路拡幅や地下道・歩行者デッキ整備が進みます。

［主な出来事］
- イーストキャンプの返還＋神戸国際会館開業
- 神戸市役所の現在地への移設 ・ 花時計の整備
- さんちか開業＋交通センタービル開業
- 戦後区画整理　さんプラザ ・ センタープラザ開業
- 新神戸駅開業
- 阪神高速整備

1981-

フラワーロードのシンボルロード化

山を削った土で海面を埋め立てるポートアイランドや
ポートライナーの整備など、様々な開発を進めます
ポートピア '81の開催にあたり税関線は
「花とみどりと彫刻の道」フラワーロードとして
整備されるとともに、他都市に先駆けた景観行政の
開始により美しいまちなみを醸成し、
神戸のシンボルロードとして定着します。

［主な出来事］
- フラワーロード整備（花とみどりと彫刻の道）
- 市電の全面廃止 ・ 神戸まつりの開催（1971～）
- ポートライナーや西神 ・ 山手線の開通
- 景観行政の始まり（税関線沿道都市景観形成地域）

1995-

震災からの復興

兵庫県南部地震に襲われた神戸は、
粘り強く復興を遂げ、まちの賑わいや
美しいまちなみを取り戻します。

［主な出来事］
- 新国際会館の誕生
- 市営地下鉄海岸線の開通
- 新聞会館の建替え ・ mintの開業
- 東遊園地に慰霊と復興のモニュメント設置、
  1.17のつどい開始
- みなとのもり公園の整備

2015-

都心・三宮の再整備

「人」中心の魅力的な空間の創出を目指して
現在、都心・三宮の再整備を進めています。
次の頁にあるように、
様々なプロジェクトが進行・計画中です。

［主な出来事］
- **神戸の都心の未来の姿［将来ビジョン］策定**
- **三宮周辺地区の『再整備基本構想』策定**
- **神戸三宮「えき≈まち空間」基本計画策定**

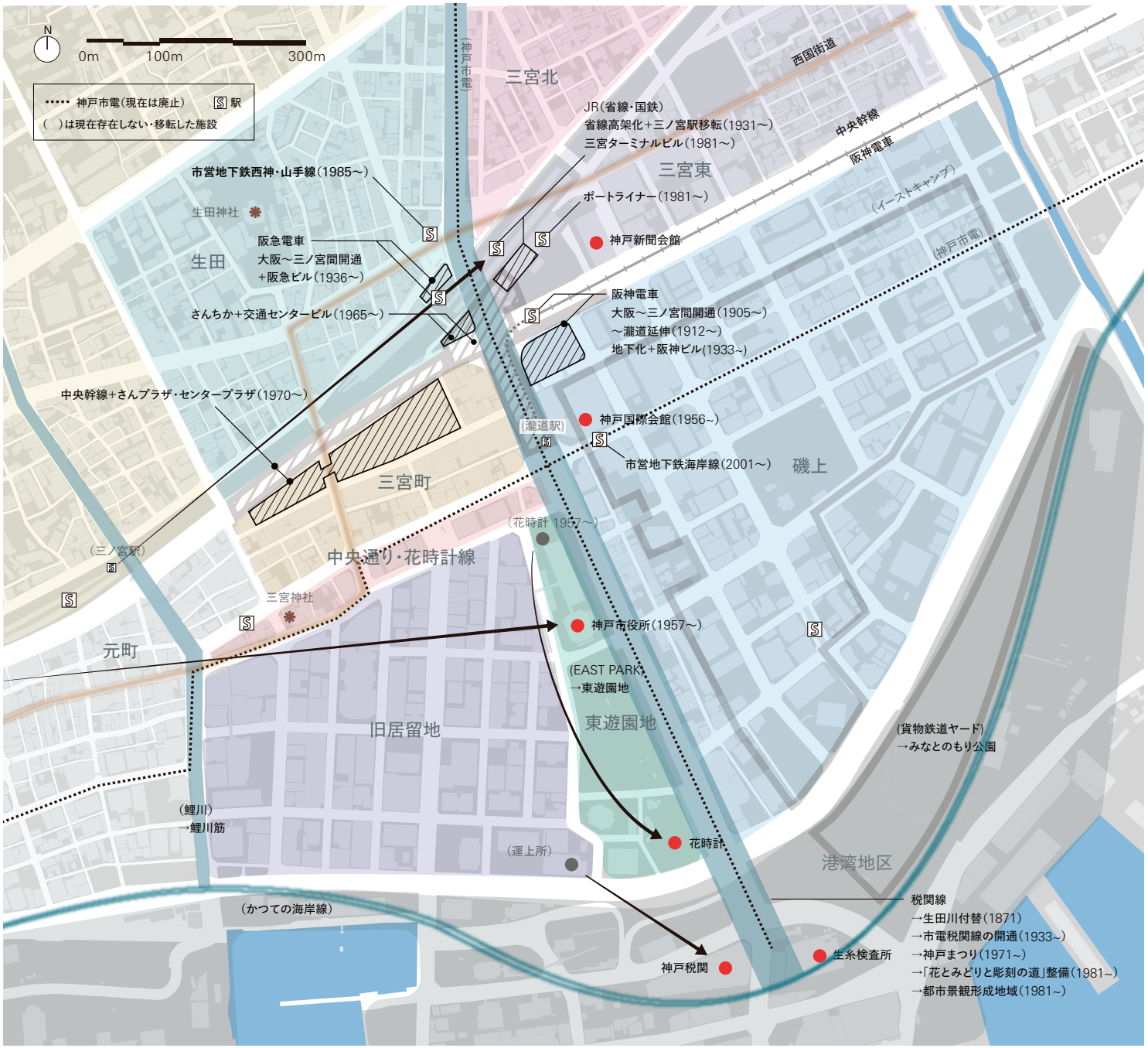
かつての生田川

阪急電車の三宮延伸と
阪急会館建設（1937年）

三宮交差点・税関線（1968年）

さんプラザ建設前の中央幹線
（1960年代）

神戸まつりの様子（1979年）



都心三宮及び周辺の都市構造

都心・三宮の再整備では、三宮及び周辺において、南北に伸びる3本の通りを「都市軸」、2箇所の交差点を主要な「回遊の拠点」と位置づけ、これまでモザイク状の「まち」で形成された都心の市街地に中心軸を形成し、人々の回遊を促進します。

それぞれの都市軸・回遊の拠点の整備の考え方と、都心・三宮の再整備がめざす都市構造のイメージを次に示します。

都市軸1：税関線（フラワーロード）

- 山と海をつなぎ、神戸の顔となるシンボルロード
- 花と緑で彩られた「フラワーロード」の愛称に相応しい空間

都市軸2：京町筋

- 旧居留地の中央を南北に貫通する歴史的なメインストリート
- 重厚な沿道建物が建ち並ぶ風格あるまちなみ

都市軸3：鯉川筋

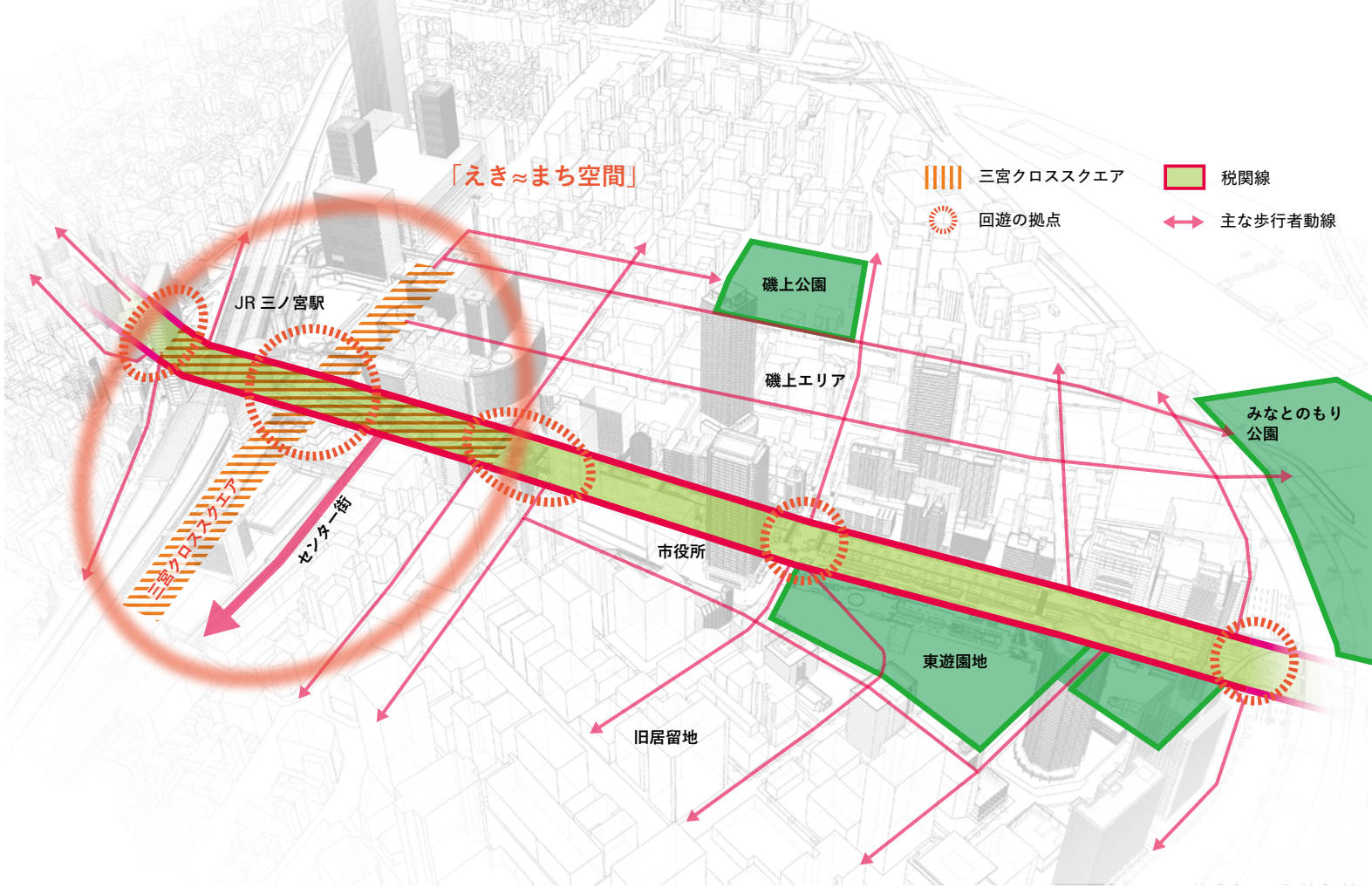
- 元町とメリケンパークをつなぐメインストリート
- 近代初期の通り型市街地（元町商店街／南京町／栄町／乙仲通り）と旧居留地が出会い、東西に走る通りの個性を受け止める空間型の都市軸

回遊の拠点：三宮交差点

- 神戸の玄関口“三宮”を印象づける神戸の「顔」にふさわしい象徴となる交差点

回遊の拠点：国際会館前交差点

- 三宮クロススクエアの南端であり、ウォーターフロントや三宮中央通りへの動線の中継点となる、三宮交差点に次いで特に重要な交差点



「えき≈まち空間」及び税関線の空間構成の考え方

神戸の玄関口となる「えき≈まち空間」及び都心の背骨となる税関線は、公共空間と沿道建築物が一体的な都市空間を形成し、長期的な都心のプロジェクトをつないでいく役割を担います。また、主要な交差点部では、回遊の拠点*を創出することにより、三宮駅からウォーターフロントへの南北の人の流れに加え、周辺のまちへの回遊も促します。

＊回遊の拠点
回遊の拠点は、都市のエントランスや異なる「まち」が出会う場所に、滞留と人の流れを促す役割を担います。
「えき≈まち空間」及び税関線の回遊の拠点においては、交差点周辺の建築物等と一体となった空間創出、花や照明などのファーニチャーや、舗装の統一感による演出、人のたまり空間の創出、税関線から周辺のまちへの回遊の仕掛けづくりを行います。

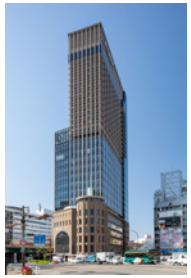
都心における主要プロジェクト

＊各プロジェクトの箇所についてはP1-08を参照

❶ 三宮クロススクエア

三宮駅前に生み出す「人と公共交通優先の空間」。都心・三宮の再整備の核となる事業で段階的に整備予定。

❷ 神戸三宮阪急ビル



最上階に展望フロアを有する高さ120mの駅ビル。神戸の新たなランドマークとして2021年完成。

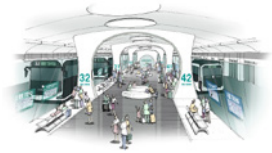
❸ サンキタ通り

三宮北西エリアのにぎわい創出に向け、歩行者中心の空間として再整備。公共空間と沿道建築物が一体となった魅力的な空間へ。

❹ さんきたアモーレ広場

待ち合わせ場所として親しまれてきた駅前広場を、コンペで決定したデザインに基づき再整備。

❺ 新たな中・長距離バスターミナル



西日本最大級となる中・長距離バスターミナル。ホールや図書館、ホテル、オフィスなどをあわせた複合ビルとして整備予定。

❻ JR新駅ビル及び JR三ノ宮駅南側 駅前広場の再整備

乗換動線を改善する上での要の場所であるJR三ノ宮駅前において、JR新駅ビルの開発や、それに伴う駅前広場の再編などを実施予定。

❼ 三宮駅周辺 歩行者デッキ

コンペで決定した新たな神戸の玄関口にふさわしい上質で洗練された空間をつなぐ歩行者デッキ。木材を豊富に用いた三角格子の屋根は、自然の木漏れ日を連想させる温かみのあるデザイン。

❽ 税関線の再整備

本庁舎2号館や東遊園地の再整備の進捗に合わせて、歩道の拡幅や、自転車走行空間を整備予定。

❾ 神戸市役所本庁舎
2号館の再整備

三宮駅と周辺エリアの回遊性を向上させるため、庁舎機能に加え、にぎわい機能を持たせた官民連携の複合施設として再整備。

❿ 中央区役所・中央区
文化センター

中央区役所及び勤労会館・生田文化会館・葺合文化センターの機能の一部を移転。誰もが利用しやすく、にぎわいを生み出す施設として整備。

⓫ 東遊園地の再整備

都心の活性化や回遊性向上の拠点として再整備を行い、さらなるにぎわいを創出。Park－PFI制度の導入やこどものための図書館の設置等を予定。

⓬ 税関前歩道橋

三宮周辺地区とウォーターフロント間の回遊性向上に向け「渡りたくなる歩道橋」にリニューアル。

⓭ 磯上公園の再整備

新しい体育館の整備をはじめ、都心の貴重なオープンスペースとして園地の一部の再整備を実施予定。

⓮ 葺合南54号線

車中心から人中心の空間に生まれ変わった道路。様々なタイプのベンチや美しい花壇が特徴的。

⓯ 三宮プラッツ

京町筋の玄関口としてゲート性を担う広場空間。シンボリックな外形のミラールーフ、憩いの空間としての階段ベンチ、夜間景観を彩る照明が特徴的。

⓰ KOBEパークレット

道路の一部に設置したウッドデッキの休憩施設。読書や食事など使い方は自由。

⓱ 鯉川筋

個性の異なる「まち」が出会う空間型の都市軸として、歩行者空間の拡充を段階的に行う。

⓲ 元町駅まちなか拠点

JR元町駅東口で整備した待ち合わせスポット。コンペで決定した階段状のベンチが特徴的。

⓳ 新港突堤西地区の
再開発

かつての荷役中心地として「みなと神戸」の発展を支えたエリアで複合再開発が進行中。回遊性を高めるデッキや、開放感のある歩行空間を整備予定。

⓴ ポートタワーの
リニューアル

令和3年10月からリニューアル工事に着手。
屋上展望歩廊や、低層部4階には屋外テラスを新設する。開業60周年となる令和5年夏頃完成予定。

㉑ 連節バス

都市の魅力・回遊性を高める新たな公共交通システム検討の一環として運行。

道路空間を活用したこれまでの取り組み

都心·三宮の再整備において、居心地の良い歩きたくなるまちづくりに向け、道路空間を活用した様々な取り組みを進めています。以下では、前項で示した都心における主要なプロジェクトのうち、整備が完了し運用を開始している事例について紹介します。

葺合南54号線

- 駅からウォーターフロントエリアへ誘うみちとして重要な役割を担う葺合南54号線。2車線と停車帯で構成されていた道路を1車線にし、新たに生み出した道路空間を人優先の空間に再配分することで、安全で快適な歩行者空間を創出。
- 新たに生まれた空間には、配置に工夫を凝らしたさまざまな種類のベンチや景観に潤いを与える植栽を設置。
- 整備後は多くの方々に居心地の良い空間として利用していただいており、沿道にはカフェが新たに入るなど、さらなるにぎわいが生まれている。

▲ 整備前

▲ 整備後

三宮プラッツ

- 三宮中央通りの地下通路と地上とを結ぶ半地下の屋外広場を都心の新たな魅力スポットとなるようにリニューアル。
- ミラールーフの下面を鏡面仕上げにすることで地下に埋没した広場での活動を映し出し、にぎわいを地上に拡散。また、このシンボリックな外形は、南北の都市軸である京町筋の玄関口としてゲート性を演出。
- 「毎日何かが行われている」空間を目指し、都市再生特別措置法による道路占用の緩和制度を活用した民間事業者による運営を実施（R2.4～）。
- 音楽イベント、ランチの販売などのイベントを行っている。

▲ 整備前

▲ 整備後

KOBE
パークレット

- 三宮と元町を結ぶ三宮中央通りでは、車道の停車帯を活用した歩行者のための休憩施設を3か所設置し、車のための空間から人のための空間へ。
- 家族連れ向けのテーブルやオフィスワーカー向けのカウンター等、それぞれの場所の特性にあわせたデザイン。
- 日常管理を行う地元団体(民)、デザイン監修を行う大学(学)、製作及び設置者としての行政(官)の民学官の連携体制により実現。また、壁面広告による協賛金をまちづくり活動に充てる持続可能なスキームを運用。
- 以上のような、デザイン性と取り組みが評価され、2018年にグッドデザイン賞を受賞。

▲ 整備前

▲ 整備後

鯉川筋

- 元町駅からウォーターフロントへの移動の「要」となる鯉川筋。
- 鯉川筋西側に複数本走る東西通りを旧居留地の街区が受け止めるような構造であり、それぞれの通りの個性を受け止める広場のような空間に再整備。
- 「人々が集い、憩い、また、行き来しやすい空間」を目指し、鯉川筋にかかわりの深いまちづくり団体などと神戸市が中心となった実行委員会により具体的な整備デザインを検討。交通社会実験を経て歩行者空間の拡充を段階的に実施。

▲ 整備前

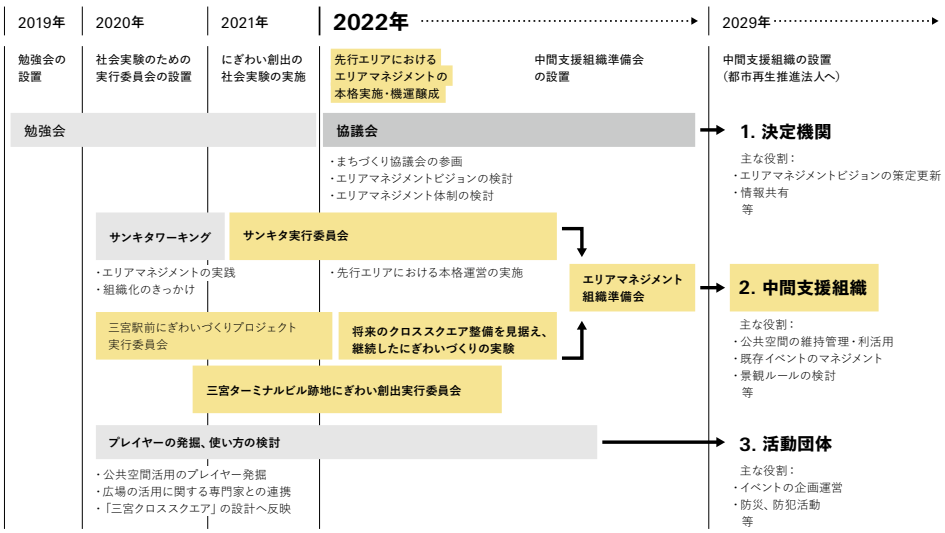
▲ 整備後

「えき≈まち空間」における エリアマネジメントの取り組み

「三宮クロススクエア」を核とする「えき≈まち空間」を、多くの人々が訪れたくなる魅力的な空間とするには、ハード整備だけでなくソフト施策が重要であり、特に民間事業者や行政等の多様な関係者の協働により、公共空間の利活用・管理運営を行う、エリアマネジメントの実現に向けて取り組むことが必要です。

平成30年度より、三宮駅周辺のまちづくり協議会や地権者を中心とした企業の方々と勉強会やワークショップ等を実施してきており、現在は、三宮駅周辺の3か所において、それぞれ実行委員会を立ち上げ、より実践的な取り組みを行っています。その中で、市民や関係者の方々と、居心地の良い空間を共有することで、「三宮クロススクエア」の実現に向けた機運の醸成を図りながら、民間主導で公共空間を利活用・管理運営する仕組みの検討や、実際に公共空間を利活用する人材の発掘等を行うことで、エリアマネジメント体制の具体化を進めると共に、ハード整備の計画にも反映していく予定です。

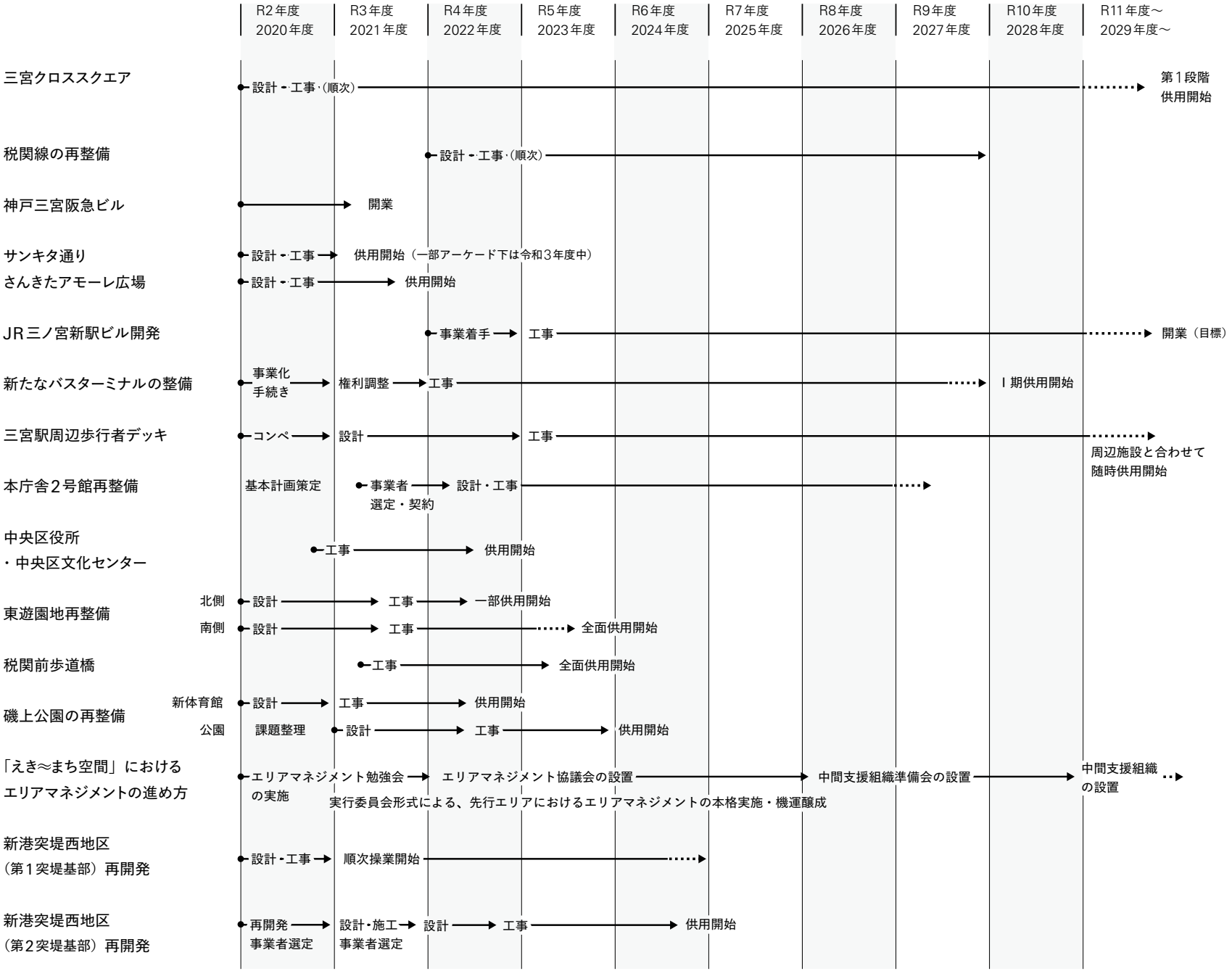
今後、引き続き官民が一体となって行う公共空間と沿道建築物の整備にあわせて、エリアマネジメント活動により、生み出された空間ににぎわいをもたらすとともに、維持管理も行っていくことで、人が主役の居心地が良いまちづくりを目指します。



▶ ワークショップ
・勉強会のイメージ

▶ 左：JR三ノ宮駅前にぎわい創出（Street Table 三ノ宮）
▶ 右上：三宮駅前にぎわいづくりプロジェクト（サンノミヤシティピクニック）
▶ 右下：サンキタ通り・さんきたアモーレ広場にぎわい創出

スケジュール


R2年度 2020年度
R3年度 2021年度
R4年度 2022年度
R5年度 2023年度
R6年度 2024年度
R7年度 2025年度
R8年度 2026年度
R9年度 2027年度
R10年度 2028年度
R11年度～ 2029年度～
三宮クロススクエア
設計・工事（順次）
第1段階 供用開始
税関線の再整備
設計・工事（順次）
神戸三宮阪急ビル
開業
サンキタ通り
設計・工事
供用開始（一部アーケード下は令和3年度中）
さんきたアモーレ広場
設計・工事
供用開始
JR三ノ宮新駅ビル開発
事業着手
工事
開業（目標）
新たなバスターミナルの整備
事業化 手続き
権利調整
工事
I期供用開始
三宮駅周辺歩行者デッキ
コンペ
設計
工事
周辺施設と合わせて 随時供用開始
本庁舎2号館再整備
基本計画策定
事業者 選定・契約
設計・工事
中央区役所 ・中央区文化センター
工事
供用開始
東遊園地再整備
北側
設計
工事
一部供用開始
南側
設計
工事
全面供用開始
税関前歩道橋
工事
全面供用開始
磯上公園の再整備
新体育館
設計
工事
供用開始
公園
課題整理
設計
工事
供用開始
「えき≈まち空間」における エリアマネジメントの進め方
エリアマネジメント勉強会 の実施
エリアマネジメント協議会の設置
中間支援組織準備会の設置
中間支援組織 の設置
実行委員会形式による、先行エリアにおけるエリアマネジメントの本格実施・機運醸成
新港突堤西地区 （第1突堤基部）再開発
設計・工事
順次操業開始
新港突堤西地区 （第2突堤基部）再開発
再開発 事業者選定
設計・施工 事業者選定
設計
工事
供用開始